

ちよつとしたキセキ

作 なかむらとこ

登場人物

ももや 二十四歳 男 国立大学卒 家出中

まさお 四十二歳 男 無職 執行猶予中

福子 八十六歳 女 迷子

がっちゃん 二十四歳 女 ももやの幼馴染

○黄昏時。郊外のコンビニ駐車場。上手にベンチのような台がある。

パンパン（柏手の音）

下手より、まさお、ももや 登場

ももや 神様に護ってもらった方がいいと思って。

まさお だからって、今、行くことないだろ。

ももや 今、必要だと思ったんです。

まさお おまえさ。普通さ。どんな時お願いする？

（間）

ももや 合格祈願。

まさお そうだな。

ももや 就職祈願。恋愛成就。家内安全。病気平癒。商売繁盛。千客万来。

心願成就。延命息災。大願成就。不老長寿。延年天寿。不老長寿。

交通安全。

まさお わかった。わかった。

ももや あと。夫婦円満。ですかね。

まさお 夫婦円満は自己努力だろ。ま、そんなもんだ。

んで、神様に聞いてもらえると思う？

ももや そうなんですけど。

まさお ここはどこだ？

ももや コンビニの駐車場です。

まさお 俺らはこれから何する？

ももや 僕は外で人通りをみます。

まさお そうだろ。

俺はレジで。金を出せ！だろ！

ももや 理解はしてます。

でも。

うまくいかない気はします。

まさお うまくいくように神様に頼んだんじゃないのかよ。

(間)

まさお 神様も困るよな。強盗の片棒担げたってなあ。

そつえば、ばあちゃんが、神社は口の高いうちに行くもんだっ

て言ってたな。

こんな黄昏時にいかないだろ。普通。

しかし。

神社の前のコンビニってありか？違和感あるよな。

おまえさ、なんでここがいいって思ったの？

(間)

ももや 駐車場が広い。

人目につかない場所がある。

民家が近くはない。

あと、土地勘がある。

まさお まあ、駐車場は広いな。カリパクしてきた車も目立ってない。

だいたいさ。この期に及んで、お参りとか信じらんない。

おまえには迷惑かけないって言ったよな。

俺が勝ったんだから約束守れよ。

そりゃ、一勝九敗だったよ。九敗したあと、きいたろ。おまえ、東

大かって？そうだっていうから驚いたわ。そりゃ、勝ちたいって思

うだろ。居飛車で。こう。鮮やかに。

死闘だったよな。うん。

で、おれが、勝ったわけだ。最後に一勝。

勝った方の言うことを聞く。って約束したろ。

おまえは、外で、人通りのないときを見計らって、手を振るだけで

いいんだって。

おれは、レジに行って金を出せ！とやってくる。

ま、つかまったら、今度こそムシヨ行きだ。

まあ。つかまると、おれも思ってる。

そしたら少なくとも三カ月くらいは住むところは確保できる。メシも食える。いじめにもあわない。服に気を使わなくていい。女の視線も気にしなくていい。世の中の音が聞こえてこない。持病の薬ももらえるかもしれない。

みる。いいことだらけだ。しかも、将棋付きだぞ。

(間)

ももや
再犯率が下がらないのがわかった気がします。

まさお
おまえはいいよ。腐っても東大。変なヤツだろうが、ネームバリュー

ーが全然ちがう。どっか雇ってくれるだろ。おれは、三流大学だったから臨時雇いしかなかった。気づいたら、家もない、貯金もない。何も無い。職場で、ハブられたことはある。下手にできれば、バカにされ。気張ると打たれた。メンタルやられない方がおかしい。真冬に残業を押し付けられて暖房きられたりしてな。結構がんばったつもりだったけどなあ。誰も認めてくれなかったよ。

あげく、面倒見てくれたばあちゃんが倒れた時も駆けつけられな

かったんだよな。

(間)

ももや 他人と過去は変えられません。

まさお おまえさ。もうちょっと、気の利いたこと言えないの？

(間)

ももや 気の利いたこと？ですか？

(間)

ももや 例えば？

下手から福子登場

ふらふらと蛇行しながら、ももや、まさおの前を通りすぎていく。

まさお だから。

大変でしたね。とか。

頑張りましたね。とか。

あるだろ。

(間)

ももや 解決にはならないと思います。

(間)

ももや あのおばあさん、変じゃないですか？

まさお おまえの方が変だろ。

ももや 明らかに蛇行してます。

まさお おい。今余計なことするなよ。

福子、ぐらっとする。ももや駆け寄り支える。

まさお きいてないな。

ももや 上手の台に福子を座らせる

ももや ちよっと座りましょ。

福子 すんませんなあ。

まさお、福子を気にしながら、ももやを手招きする。

ももやまさおに近づく。

まさお なんで、手えかすんだ？

これから俺たち何するんだっけ！？

ももや しーっ。

まさお、くちをつぐむ

ももや 今、おばあさんが倒れたら救急車がきます。警察も来るかもしれ

ません。外にいる僕らは事情徴収を受けるでしょう。今晚の計画は

なしになります。

まさお ああ、確かに。

福子 立ち上がり下手に歩こうとする。また、立ち止まって上手にあるところ
する。ももや、駆け寄り支える。

ももや おばあさん。

福子 はあ。

ももや 目的地はどこですか？

まさお 目的地。かよっ。

まさお、ももやを押しやり、福子を支える。そのまま、上手の台に座らせる。

まさお おばあちゃん。どこいくの？

福子 どこ、行くんですたやろ？

まさお ここ、コンビニ。あっち神社。

福子 はあ。

まさお 誰か一緒？

福子 どうでしたやろ？

まさお あかん。これ迷子やな。

(間)

ももや あっ。まさおさん？関西出身なんですか？

まさお 今、まさおさんってよんだ？

ももや 南四頭五条(みなみよつがしらごうごじょう)さんが面倒ならまさおで

いって言ってましたよね。

まさお 言ったか？そんなこと？

福子 まさおさん、いんですか？よう、草刈正雄さんに似てはると思

いましたわ。そうですか。まさおさんですか。

ももや 草刈正雄？

まさお よく言われるんだよなあ。草刈正雄似の甘いマスクだって。

学生時代は結構もてたと思うんだよなあ。

って。

冗談です。

(小声で)なんで、名前呼んだ？

ももや いきなり関西弁だったから

まさお 名前明かしてどうすんだよ？

福子、辺りを見回して、立ち上がる。

福子 まさおさん。病院は近くやろか？

まさお うん？病院？

福子 病院に行くはずやった。

まさお 病院。

わかった。病院まで送ってあげよう。

(間)

ももや どこのですか？

まさお そこらの病院の前においてくればいいだろ。

(間)

ももや 警備員がいますよ。

まさお じゃあ、どうすんだよ。

(間)

ももや 交番に送っていきましょう。

まさお 交番はダメだ。俺たち強盗だぞ。

ももや まだ、何もしてません。

じゃ、ご家族に電話してここに迎えに来てもらいましょう？

まさお ここ？ここはダメだろ？

ももや おばあさん。おうちどこ？

まさお だめだって。

福子 うち？

忘れてしもた。

長男の家に来たのやけど、どこか、ようわからん。

書き物か何か、ここに入ってるやろか？

福子 手元のバックの中をゴソゴソ何か探し始める。

福子 くろうてようみえへん。

まさおさん、なかみてくれへん？

まさお 俺かい。

まさお バックの中から台にひとつひとつ並べる。

まさお ティッシュ。ハンカチ。名札。あった。あった。木下福子。おばあちゃん。福ちゃんなんだ。住所書いてある。横浜市？横浜？かなり遠いぞ。あとは、封筒。なんか、厚いなこの封筒。

ももや おばあさん。どうやってここまできたの？

福子 バスに乗ってきたんやと思うんやけど。

まさお バックからだした封筒の中身を覗く。途端、胸元にいれるが、一旦出す。

まさお おい。おい。(小声)

ももや はい？

まさお このばあさん。大金持ってるぞ。ほら、この厚さだと五十万くらいだと思っ。

(間)

まさお これもらおう。なっ。これもらお。なくなったって覚えてるわけな

い。バックにいれてることすら忘れてるって。
そうすれば、強盗の真似なんてしなくていい。
運が回ってきたと思わないか？

(間)

ももや 窃盗だと思います。

まさお この封筒、落ちてたんだ。なっ。わかんないよ。

どうせ、俺たちの名前だっておぼえられるわけない。

福子 まさおさん。ここ、どこやろ？

ももや 覚えられてるじゃないですか。

まさお おまえがしゃべったからだろ！。

ももや とにかく、一旦それ戻してください。

ももや、まさおから封筒を強引に取り上げ福子のバッグに入れる。

ももや おばあさん。バックはぎゅっとしてた方がいいですよ。

福子 あの。あなた？

ももや ボクですか？

福子 あんた、テレビの宣伝に出てくる人に、ようにとる。

ももや あー。

のりのピン詰め。のやつじゃないですか。

よく言われてました。

まさお あっ。眼鏡かけたヤツ？おー。似てる似てる。

ご飯だよ。ん？ご飯です。ん？

福子 どの宣伝やったか。

もおが付く。

下手からがっちゃん登場 ももやに向かって一直線。

がっちゃん ももやっ。ももやでしょ。ももや。確保！。

がっちゃん、ももやにつかみかかる。

がっちゃん いい加減家かえりなよ。電話でなよ。ライン返信しなよ。何やっ

ってんのよ！おばさん、心配してる。

ももや がっちゃん。。。。苦しい。離して。

がっちゃん、ももやの首元から手を放す。

がっちゃん ごめん。やっと会えたから。

まさお あの。だれ？

(間)

ももや がっちゃんです。

がっちゃん あー。すみません。今日はももやの誕生日だな。ってももやの

と考えてたら急に本人があらわれたんで、びっくりしちゃって。

ももやとは道場ですーつと一緒にでした。

まさお こっちも、びっくりしたわ。

 おまえ、今日、誕生日？

ももや そうです。

まさお そうか。誕生日なんだ。

福子 あの。すみません。

がっちゃん はい？

福子 えろっ、すみません。

まさお どした？おばあちゃん。

福子 喉が渇きよるんですが？

がっちゃん ももや。飲み物持ってないの？

 渴く前に飲ませてあげないと。

ももや 気付かなかった。

福子 お姉さん、看護婦さん？

 あの、お水いただけませんかやろか？

がっちゃん おばあちゃんごめんね。今、持ってないの。

 がっちゃん、ももやとまさおを見る。ふたりとも首を振る。

まさお 小銭、小銭あったかな。

ももや さっき、お賽銭あげたから・・・。

がっちゃん もう。

おばあちゃん。ちょっと待ってて。

買ってくるから。

ももや、逃げるなよ。

がっちゃん 小走りに上手に退場。

まさお なんで？どーして？

このまま逃げよ。あの子にはあさん任せればいいだろ。

ももや 強盗のマネはやめですか？

まさお 今日は無理だろ？

つか、ここは無理だろ？

ばあさんの五十万円いただいて逃げよ。

(間)

ももや だめです。

まさお やだ。俺には五十万円が必要なんだ。

(間)

ももや まさおさん言ってたじゃないですか？

オレオレ詐欺だけはやらないって。

まさお これはオレオレ詐欺じゃないじゃないか。

ももや お年寄りからお金せしめるって。同じじゃないですか。

まさお 同じじゃない！！

福子 なあ。ケンカはようないで。

誰とでも、仲良うせな。

まさおさん年上やろ。優しくしてあげ

まさお そこはわかるんかい！

がっちゃん上手より戻ってくる。

がっちゃん おばあちゃん。これ。ゆっくり飲んでね。

まったく、信じられない。

お年寄りと出かけるときは水分補給とお手洗いの面倒見てあげないとだめでしょ。ももや、おばあちゃんちにいたからわかってたでしょ。しりあいのおばあちゃんだからって遠慮しないで言

ってあげないと。

福子 あー、そやお手洗い。

しばらく行ってないわ。

がっちゃん そうなの？

福子 行っところかねえ。

がっちゃん　ひとりで行けますか？

福子　あんた、一緒にいってくれるか？

がっちゃん　いいですよ。

福子　ありがとう。ほな、まさおさん。待っててな。

まさお　おー。いってらっしゃい。

まさお　福子に手を振る。

がっちゃん、福子を支えながら上手に消えていく。

まさお　なんでこうなる？

俺たちの計画は？寝るところは？飯は？

だいたい誰なんだよ。あの子？

ももや　がっちゃんですか？

まさお　がっちゃん？そう、がっちゃん。

ももや　ドクタースランプって知ってますか？

なんでも食べちゃう強い子がいたの覚えてます？

羽がはえてる子。

まさお　男の子だか、女の子だかわかんないヤツ？

ももや　そうです。がっちゃんは最強。剣道五段です。

まさお　すげっ。

じゃなくて。

ももや がっちゃんはうちの道場のヒーローでした。

まさお 元力ノ？

ももや いえ。ヒーローです。

まさお おまえのおふくろさんが心配してるって言ってたよな。

ももや 言っていましたね。

まさお 帰る家あるじゃん。

(間)

まさお とにかく、ばあさんの五十万。もらっていくわ。

がっちゃん上手から走ってくる。いきなり、まさおの手を引く。

がっちゃん まさおさん。おばあちゃんが呼んでいます。

まさお ええっ。まさおさん。って。

がっちゃん きてください。

まさおさんしかわからなくなったみたいなんです。

で、でたくないって。

お客さんがトイレに入れないって苦情になっちゃって。

ももや 早く行ってあげてください。

荷物みえますから。

まさお おれかよお。

まさお、がっちゃんに無理やり腕を掴まれ、上手に消えていく。

ももや ひとり取り残される。そらを見上げる。

携帯の音。ももや、ポケットから取り出して画面を確認する。

ももや、携帯を眺めたままている。携帯音消える。

携帯をポケットにしまう。

ももや、大きく深呼吸をする。下手に向かって手を合わせ、お辞儀をする。

上手からまさお、がっちゃん、福子が笑いながら戻ってくる。

福子を上手の台に座らせる。

がっちゃん あーびっくりした。まさおさんがいないと出られないっていう

18

んだもん。

ほんと、よく面倒見てらっしゃるんですね。

まさお いや。みてないよ。

がっちゃん 無茶苦茶仲よく見えます。

おばあちゃん。よかったねえ。優しい息子さんで。

まさお 息子？おれ？

福子 ほんま、助かりましたわ。

がっちゃん ももや。

家帰りにくかったら、一緒にいくよ。

ももや いいよ。

まだ、帰らないし。

がっちゃん なんで？

ももや やることがあるんだ。

がっちゃん じゃ、終わったら帰るんだね。

まさお (急に大きな声で)わかった。

がっちゃん はい？

まさお ありがとう。帰ってよし。あとはおれひとりでなんとかする

(間)

がっちゃん そうですか。

ももや いや。僕、一緒にいます。

まさお いや、お前は帰った方がいい。

ももや おばあさんを置いてきぼりにしませんか？

まさお しない。

ももや どうするんですか？

がっちゃん 何のはなし？

ももや 交番に届けますか？家に送っていきますか？

がっちゃん 交番？だから、なんの話？

突然、福子が元気よく立ち上げる。

福子 思い出したわ。

まさお 今度はなに？

福子 約束があってん。

がっちゃん 約束？

福子 いかな。いま、思いだしよってから。

まさお 送ってく。その約束の場所に。

ももや 僕も付き合います。

まさお いや、いいよ。。

がっちゃん ももやも行くなら私も行く。

まさお いや、俺一人で大丈夫だから。

ももや おばあさん。どこ行きたいの？

福子 高台にある公園やったと思う。

ももや 富士森公園？

がっちゃん 片倉公園？

まさお いや、俺に任せて。

ももや 片倉公園は高台じゃないな。

がっちゃん　でもさ。

これから行って約束に間に合うのかな？

ていうか、息子さんに任せてもいいんじゃないの？

ももや　いや、僕も一緒に行く。

ふたりじゃ、さみしいよ。

福子　そやなあ。にぎやかな方がたのしいやろ。

ほな。みんなでいきましょか。

がっちゃん　仕方ないなあ。

がっちゃん、ももや、福子を支えて下手に向かって歩き出す。

まさお　聞ってる？ねえ。誰か俺の話？

俺、一人で行くって。なあ。

ももや　がっちゃん、福子下手に退場

まさおもあとを追う。

暗転

○走る車の中

運転席まさお、助手席ももや。運転席後福子。助手席後ろにがっちゃん。

まさお　なんで、こうなるのかなあ。

福子 堪忍な。まさおさん。助かるわ。

がっちゃん おばあちゃん、ほんと、いい息子さんでよかったねえ。

福子 ありがたいことです。

まさお 息子？俺かあ？

がっちゃん どこかな？

ももや 駅前を通って、小学校の裏山は？

がっちゃん 裏山って滝山城址公園のこと？夜は入れないよ。

ももや 途中まで車で登れなかったっけ？

がっちゃん 登れると思ったけど。

こんな夜に約束とかってある？

(間)

ももや ないかもね。

何十年も前の約束なのかも。

それを今、思い出したのかもしれないね。

まさお そんな、覚えてられるわけないだろ。

しかし、なんでこんなことになったんだ。

なんで、今日に限って将棋クラブの看板が目に入っちゃったん

だ？しかも、この町で。なんで、相手がおまえだったんだ？

なんで、こんなこと。

福子 あの、看護婦さん。あれはなんやろ？

がっちゃん あの駅前の人だからですか。

福子 止めてもらえませんか？

がっちゃん 停めてください。

車停まる音。

福子 あそこで売らはるのは何やろ？

まさお 約束の場所はある？

福子 なんや、にぎやかそうやない？

がっちゃん 駅前ですからねえ。

あそこは。

交番が近すぎるなあ。非番だけど。

行きたくないなあ。(独り言のよう)

わたし、いけない。

まさお なんで？

がっちゃん ももや。行ってみてきてよ。

ももや いいよ

がっちゃん、ももやに自分のバックからお財布を渡す。

がっちゃん　これ。

ももや　ありがとう。あわっ。このお守り。

僕があげたヤツ？

がっちゃん　えーっと。早く行ってきて。

ももや　ひとり車から出て上手にいぐ。

まさお　お守りもらったんだ。

がっちゃん　昔です。

まさお　へーっ。

がっちゃん　鈍感なヤツっているじゃないですか。

まさお　にぶいってことか。

ま、反応は鈍いな。

がっちゃん　ですよね。

あいつ、自分の言ったことの反応とか一切考えてないんですよ。

私、昔。ま、今もありますけど。

コンプレックスのかたまりだったんですよ。かわいくなって。

いつだったか、道場で引き胴を決めたんです。

まさお　引き胴？

がっちゃん　竹刀をこう合わせた後、下がりながら胴を打つんです。「どー！」「どー！」

つつって、いい音もしました。で、周りが一瞬『こわっ』てな
ったのを感じたんです。うわっ。やっちゃった。これで、こわ
もてキャラキまりだ。って思ったんです。そしたら、ももやだ
けが言ってくれたんです。

「がっちゃん、むっちゃ、かっこいいー！」って。

あんな、しゃべらないやつがですよ。嬉しかったです。

で、もう、強くなることにしました。

全国大会出場の時お守りももらったんです。

なのに、いなくなるなんて。

許せません。

まさお

それはちよっと。

なんか。こそばゆい。

がっちゃん

ももやは、音信不通だったんです。三年になります。おばさんが

この前倒れた時も連絡つきませんでした。電話でない。ライン既
読にならない。返信ない。時々、ハガキだけきたたそです。

ももや 上手から袋を抱えて戻ってくる。

がっちゃん

おばさんは自由にさせのに。って泣いてました。おばさんって

ももやのお母さんのことですけど。

ももや 車に乗り込む

福子 してやったのに。だったのに。したのに。のに。ばっかりや。

あんたも苦しかったんやろ。

いくつになっても親からすれば子供はごどもやから。

ほんでもな。親のありがたさはのうなってからわかるもんや。

孝行したいときに親はなし。や。

まさお おばあちゃん。そういうことはわかるんだな。

福子 私はまだ、生きとるから、ありがたみもわからんと思うで。

ももや なんか、すみません。

これ。がっちゃん。おさいふありがと。

がっちゃん なんだったの？パン？

福子 えらいあるなあ。

ももや 夜のパン屋さんだった。一個百円。このあたりで売れ残ったパンを集めて、路上生活から抜け出した人たちが売ってるんだそうです。

まさお 路上生活から抜け出す？

ももや まず雑誌を販売して、徐々に住むところを確保して、今はパンも売れるようになったんだそうです。

福子　おいしそうなあ。はよ。お父ちゃんにもってたげよ。

まさお　お父ちゃん？

がっちゃん　わあ、クリームパンだ。

ももや　がっちゃん、好きだったよね。

がっちゃん　ももやはチョコレートパン食べてたね。

ももや　身長が伸びなくなったのは甘い菓子パンのせいだって言われたんだよなあ。朝ごはん代わりにアンパン出してたのは自分のクセにな。

勝手なもんだ。

まさお　おまえさ。結構しゃるんだな。

ももや　そうですか？

まさお　で、どこ行くんだ？

(間)

ももや　正面の暗くなってる山を目指しましょう。

車　走り出す音。

がっちゃん　おばあちゃん大丈夫？

福子　だつれも聞いてくれへんかった。

買い物行きたい。いうてもな。ひとりでは、よういかれへん。

東京には知り合いもおらへん。話し相手もおらへん。

嫁はよう面倒みてくれとった。そやさかい。文句もいわれへん。

つろうなったら、町が見える高いところに来たらええ。

いっつも、そこにワジはいるで。お父ちゃんはそう、いうてはった。

がっちゃん
そうなんだ。

福子
毎日、生きてられるだけでありがたいと思とった。

けどな、人間は欲張りや。あれもしたい。これもしたい。思うようになる。あんたらは幸せやで。機銃掃射や、空襲警報がないやろ。まあ、あんたらも見えない何かと戦ってるんかもしれへんけどなあ。

28

なんや、ねむなってきたわ。

まさお
おばあちゃん。死ぬんじゃないだろうな。いろんなこと忘れてくんだろっけどよ。おばあちゃんのこと心配してる人間がいるのは忘れるなよ。

がっちゃん
おばあちゃん。もうすぐ着きますよ。もう、ちよっとおきてよっか。

まさお
おれ、どーでもよくなってたんだ。どーこの会社もやとってくれな

い。必要とされないどころか、生きていくことすら難しくなっ
てきた。

福子 私も難儀やで。

がっちゃん 助けてって言ったらどうですか？誰かに助けてって。

わかりませんが、誰かなのか、どこかなのか。

まさお そうだな。言えたらよかったかもな。

がっちゃん でも、とにかく、今日、ももやと一緒にいてくれて感謝してま
す。

まさお そりゃ、俺が将棋で勝ったからだ。

がっちゃん すごいです！。ももやは剣道より、将棋が強かったです。将棋
クラブでは負けなしかったはずですよ。

まさお えっ？

(間)

ももや この辺でいいですよ。

車の停まる音

暗転

○小高い丘の上。夜

がっちゃん、福子を支えながら辺りを見回してる。ももや、まさお少し離れたところからがっちゃんと福子をみている。

がっちゃん おばあちゃん寒くない？

福子 平気や。町がきれいやなあ。

がっちゃん ここが約束の場所なの？

福子 約束の場所？

がっちゃん ほら、おじいちゃんとの約束？

福子 そんなありませんたやろか？

ももや んー。

福子 なんで、ここにおるんやろ？

まさお やっぱりな。こうくると思ったよ。

おばあちゃんが来たといってたってたんだよ。

福子 そないでしたか？

ほな、連れてきてもらって、えらいわるいことしましたなあ。

(間)

ももや みて！ほら！あそこ。なんか光ってる。

がっちゃん だごだご？

まさお 誰か火遊びしてんじゃねえの？

シュルシュル、ドーンと花火の音

がっちゃん えっ。

まさお 花火だ。本物だ。

福子 お父ちゃん！

次々に上がる花火の音

福子 お父ちゃん。ありがとう。約束守ってくれて。

がっちゃん どんな約束だったの？

福子 お父ちゃんがいつでも見せてくれる。

返事してくれる言うてたんや。

がっちゃん そうなんだ。よかったねえ。

花火の音続いている。

まさお おまえ。知ってたんだろ？

(間)

ももや 有志の花火師がゲリラ花火を挙げてくれるって記事読んだんです。

まさお やっぱりな。

おまえが先まで考えないわけないからな。

だいたい、今日おまえと指してからいろいろありすぎた。

そつだ。思い出したよ。

将棋クラブでさ。執行猶予中だつて言つたらみんなドン引きだつたんだよな。言わなきゃよかつたんだけど、つい、出ちゃつたんだな。なんか、正直に言わないと盤に向かえないきがしてさ。それでさ。普通に俺の前に座つて「お願いします」って頭下げたくれたの。お前だけだつたんだよ。

ももや
そうでした？

まさお
そうだった。ちょっとだけ胸が熱くなつたんだつた。

ももや
そついえば。目が赤かつたような。

まさお
それはない。どうするかなあ。とりあえず、車返して。金借りるかな。明日役所にも行つてみるか。夜のパンやもいいよなあ。

32

ももや
僕、毎日行きますよ。

花火の音、やむ

がつちゃん
よかつたね。おばあちゃん。

福子
えろ、すんませんでした。

がつちゃん
ふたりとも時間あるみたいだつたし、いいんじゃない。
あのおさ、ももやとまさおさん。コンビ組んだらいいじゃない。

年の離れたコンビってないから、結構いけるかもよ。

ももや それはないよ。

まさお 俺たちもう、コンビじゃん。

ももや なんですか？

がっちゃん はは。

さ、おばあちゃん。送ってこうね。

まさお どこに？

がっちゃん まさおさんち。

まさお あのな。今更だけどな。

俺のばあちゃんじゃないし。

がっちゃん えっ？

まさお 迷子だ。

がっちゃん えっ。なんて？

まさお 迷子だ。

がっちゃん 嘘！誘拐？

まさお なわけないだろ？

こんな手のかかるばあさん。誘拐するか！

がっちゃん じゃ、なに？

ももや ぶらっとしてたから、一緒にいたんだ。

がっちゃん 嘘！絶対怒られる。非番だからって言い訳できない。

ももや がっちゃん。ごめん。つきあわせちゃって。

がっちゃん なんで早く警察にとどけなかったの？

ももや だって、ほら行きたいところがあるっていうから。

まさお 誰かさんだって、俺を息子って勘違いしてる。

がっちゃん 違うって言うってくださいよ！

ももや がっちゃん。ほんとごめん。

がっちゃん うー。

腹くるしかないな。

ももやに会えたしな。

おばあちゃん。楽しかった？

福子 ええ思いさせてもらいましたわ。

がっちゃん わかりました。

では、これから、私の職場まで送ってください。

ももや これから？

まさお いいよ。どこ？

がっちゃん 駅前交番。

ももや・まさお 駅前交番？

えっ！？嘘！

フリーズする、ももや、まさお。

がっちゃん さて、いきますか？おばあちゃん。

まさお こんなことあるわけない。

福子 世の中、あるもんはある。

ごはんですよ。のあんた。

許さなあかんで。いつか、親も自分もや。

まさお ばあさんっていいこというんだよな。時々だけど。

福子 まさおさん。あんたかて、空から見守られてる違いますか。

まさお あー。そうかもな。

おばあちゃんも今日の花火忘れんなよ。

がっちゃん、福子下手に退場

ももや まさお 下手退場途中で足を止めて空を仰ぐ。

ももや しかし、ほんの先のことすら読めないもんですね。

まさお おまえがいつかあ。

おー。そーだ、おめでとな。誕生日。

ももや あっ。ありがとうございます。

まさお そーいや、神様に何頼んだんだ？

(間)

ももや どうか、奇跡をお願いします。

ひゅるひゅる。どーん。花火の音。

暗転

(完)。